



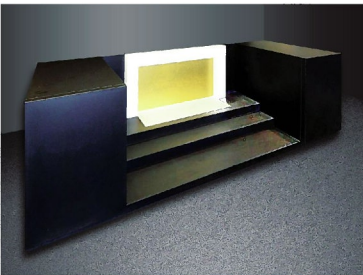
## ARCHITECTURE REVIEW



### 建築見て歩記 その59

1923年…大正時代の終わり頃に、東京に建てられた「帝国ホテル」です。設計者として、米国から、フランク・ロイド・ライトが招聘されました。関東大震災にも耐えた建物は、現在、玄関まわりだけです。犬山市の「明治村」に移築保存されています。ライト独特の装飾に満ちた空間は、気積の緩急を繰り返しつつ、訪れた人々に日常を忘れさせたと思います。

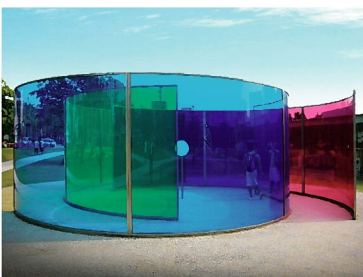
## CURRENTLY WORKS



### 故人への想い… オリジナル仏壇のデザイン

住宅のリビングに置く、オリジナル仏壇をデザインしました。小さめの仏像と位牌、幾つかのガラスの器を置きたい…との要望と、設置場所の状況から、幅1,130mm・奥行き450mm・高さ310mmの「小さな建築」のようなデザインとなりました。階段の上には、ほのかに光るアーチと同じく発光する床面があり、左右は小物収納用の引出しになっています。

## PRIVATE TOPICS



### 太田のアート探訪記 その14

これも、前回ご紹介した、オラファー・エリアソン氏の作品で、同じく「金沢21世紀美術館」の庭にあります。湾曲した3枚の壁が、三つ巴の構えで立ち、光の三原色を持った透過性のある素材をまとっています。そのため、見る位置により、手前とその向こうの色が混じり、実際には無い緑色やオレンジ色が現れ、その美しい変化に、動きを誘発されます。

## EDITORIAL NOTE

6月の第三日曜日は「父の日」です。これは1909年に、アメリカで男手ひとつで育った女性が、亡き父の誕生月の6月に、教会へ礼拝を頼んだことから始まり、1916年に、時の大統領が演説、1966年には同じく大統領が今日にちを決めました。母の日はカーネーションですが、父の日は薔薇…え？…貰った事ない!

編集担当：太田・藤原